

【はじめに】

社会福祉法人を取り巻く環境は、日々変化しており、社会福祉法人に期待される役割はますます大きくなっている。このような状況において、淳風おおさかでは平成29年度から平成33年度までを5か年の中長期計画と位置付け「地域包括ケアシステムにおける淳風おおさかの役割の明確化」を目標に様々な取り組みを展開してきた。今回は、5か年計画の中間評価として地域にアンケート調査を実施した。そこから見えてきた地域における施設の課題や今後期待されていることご入居者の処遇の変化について事例報告を行う。

【取り組み】

①地域交流

地域住民同士、ご入居者との交流を目的とした夏祭りや体操教室等のイベントを定期開催。

②地域活動

地域での取り組みを理解するために地域活動への参加。『町会活動、地域行事、認知症カフェ等』

③情報発信

介護保険制度や認知症ケア、看取り介護、介護技術講習等の専門領域に関する情報発信。

④その他

幼稚園や中学生の訪問による世代間交流、ボランティア団体の活動機会の提供、次世代の専門職育成のための実習生の受け入れ。子育てサロン。

◇アンケート調査

地域でボランティア活動に従事されている方を対象に認知度について、今後期待すること、その他の内容でアンケート調査を実施。57名回答。

①知名度について淳風おおさかを知っているか？との設問で「知っている 86.0%」「知らない 14.0%」だった。さらには②淳風おおさかのサービス内容の認知度については「知っている 77.2%」「知らない 22.8%」であった。③今後期待すること、として最も多く挙げられた意見は「継続的な地域活動への参加」であり「施設の開放」「サービス向上」「介護技術講習」と

続いた。その他として認知症の方への対応方法や医療ニーズの受け入れ拡大、待機期間の短縮などが挙げられた。

【考察】

◇アンケート結果から

○知名度、認知度

認知度が低い要因として施設が法人母体である清風寺の同一敷地内に立っており、外観も似ている為、長らく介護施設と認識されていなかった経緯がある。これまでもHP、季刊誌を通じて周知活動を図ったが周知活動が不十分であったことと考えられる。今後は情報発信を工夫し淳風おおさかの「見える化」を推進していく必要がある。

○今後期待すること①地域活動への参加

施設だけではなく実際に生活されているご入居者との継続的な交流を期待されている。施設で生活される特養のご入居者にとっても地域と交流することは大変有意義である。施設入所を機に一度途絶えてしまったコミュニティが地域行事へ参加することで復活するケースもみられている。以前から地域で暮らされていた方は社会性の継続を目指し、それ以外の方は新しいコミュニティ形成の為に入居者と地域を繋ぐことも施設の役割の一つであると改めて気づかされた。

○今後期待すること②専門機能サービス向上

淳風おおさかは専門機能の向上として看取り介護、認知症ケア、スキルアップに取り組み始めたところである。まず職員の意識改革が必要であり職員ひとり一人が特養の役割や機能を理解し施設職員も地域の一員であるという自覚を持ち専門職としてのスキルアップを目指す体制整備を図っていく。

◇今後に向けて

淳風おおさかは在宅・施設サービスで培った知識・技術を相互に活かし、多様化する介護ニーズに応えられる施設運営を目指していく。

そのためには、目の前のご入居者が最期まで自分らしい生活が送れるよう愚直に取り組んでいくことが第一歩であると考えている。